

## ⑤2 チンゲンサイを育てよう

# 夏は寒冷紗で遮光を

チンゲンサイは、アブラナ科の1年草です。地中海沿岸原産で、中国に伝わり栽培化が進みました。涼しい気候を好み、生育適温は15～20度で、3度以下では生育が止まり、低温障害を受けます。13度以下の低温に当たると花芽が作られ、収穫前に花が咲くことがあります。土質はあまり選びませんが、有機質を多く含んだ排水性の良い土壌を好みます。

### 1. 品種

昭和40年代後半、中国の品種が日本に伝わり改良され、日本のチンゲンサイができました。草丈25センチ程度の「青帝」「夏賞味」などのほか草丈15センチ程度のミニ品種もあります。

### 2. 畑の準備

定植の2週間前に1平方メートル当たり苦土石灰100グラムを散布し、耕うんします。その1週間後、1平方メートル当たり堆肥2キログラム、化成肥料（成分15・15・15）80グラムを散布し、耕うんします。

### 3. 播種

畝幅100センチ（床幅60センチ、通路幅40センチ）高さ5センチの畝を作り、種子のまき溝を20センチ間隔で板などを使って作ります。まき溝に3センチ間隔で種子をまき、播種後はクワで覆土、鎮圧していきます。

### 4. 間引き

発芽後、本葉が出たら、奇形のもの、小さいものなどを間引きます。本葉2枚、さらに本葉4～5枚の頃、間引き、最終の株間を15センチにします。

### 5. 追肥、灌水、管理

基肥主体で育て、生育が遅い場合は追肥用化成肥料を1平方メートル当たり20グラム散布します。冬はビニールトンネルなどで保温をし、夏は寒冷紗などで覆い遮光します。土壌が乾いたら灌水します。

### 6. 病害虫

コナガ、アオムシ、キスジノミハムシなどが発生します。見つけたら農薬などで防除します。防虫ネットで被覆すると被害を軽減できます。病気は白さび病、軟腐病があります。過湿には気を付けましょう。

### 7. 収穫

夏場は播種後35日、春秋で45から65日程度で収穫できるようになります。取り遅れは固くなるので、株の直径が5センチほどになったらハサミで根を切って収穫します。

（鹿児島市都市農業センター）

